

平成30年度星槎大学入学式学長告辞

入学生の皆様、おめでとうございます。星槎へようこそ。皆様を歓迎いたします。

ご家族ご関係者の皆様も誠におめでとうございます。

強い思いとともに星槎大学の扉を叩いた学生の皆様の学びをぜひお支えください。

これは本当に大切なことです。

ぜひよろしく願います。

また公私ともに大変ご多用な中、ご臨席いただきましたご来賓の皆様方、ありがとうございます。

いつも本学にご理解・ご協力を賜り、こころより感謝を申し上げます。

ここにいらっしゃるご来賓は学生の皆様の応援団です。

心強い応援団です。

本日お迎えいたします新入生は、学部952名、大学院教育学研究科35名、同じく大学院教育実践研究科15名の計1,002名でございます。

その中にはすでに昨年の10月生として入学し、学びを始めている方もおります。学部の平均年齢33歳、両大学院の平均が45歳。

本年度の入学生は日本全国に加え、アメリカとロシアからもいらっしゃいます。

星槎大学らしく、本日はテレビ会議で結び、入学式を執り行わせていただきます。

本学は共生科学部共生科学科とその共生科学を礎とした大学院として教育学研究科と教育実践研究科があります。

教育学研究科には看護教育研究コースと本年度新設のメディア・ジャーナリズム研究コースがあります。

また教育実践研究科は日本で唯一の、教職大学院ではない、教育分野の専門職大学院です。世に多くある教職大学院とは異なり、幼小中高の内容に限定されない、専門学校やその他の社会教育までも広く捉える学習者の視点にたった日本で唯一の教育分野の専門職大学院です。

共生科学は世に多々ある専門的な領域を共に生きる「共生」というキーワードを軸に横断的に捉え直そうという試みです。

一つ一つの専門性は大切なものですが、その専門性の全体性あるいは相互関連性の中における意味を見つめ直すことで、ともすれば忘れがちになる本来の科学の目的、何のための科学かという目的を取り戻し、世界観を再構築し、その中からより笑顔の多い社会にするための英知を得る営みともいえます。

星槎大学に入学されたきっかけは皆さん様々だと拝察します。例えば、

- ・ こどもとの関わりでもっと自分のスキルを向上したい。
- ・ 教員免許を取得したい。
- ・ 仕事で環境に関する知見が必要になった。
- ・ 最近のテレビを見ていて紛争やテロに心が痛んだ。
- ・ 福祉の仕事がしたい。
- ・ 退職したのでじっくりと若い時にできなかった学びを始めたい。

ぜひその思いを大切に、心に現れたその脈動を大切に学び続けていきましょう。

星槎大学は「学齢期」とは学習に適した若い時期というものではなく、学びたいと思った時がそれぞれの「学習適齢期」であると考え、その一步を踏み出すお志には、それが何歳であれ敬意をもってお応えしたいと考えます。

学歴とは何か戦うための武器のような時代が続いているような気がします。

学ぶという何よりも楽しい営みが、子供達の前に何か殺伐とした様相を呈していることは残念でなりません。

若い大切な時期に常なる強迫観念の中で日々を過ごす状況も実際にあります。

しかし、私たちは全ての人間は基本的人権として学びたいときに学ぶ権利を持っていると考えます。

比較的恵まれたこの日本でさえ、実際にはそれは必ずしも実現をされているわけではないのですが、少なくとも「学歴」を、若き時にどの学校で学んだかという「学校歴」というよりは、何を何のために学んだかという「学習歴」と考え、一生更新し続けるのが本当の豊かさとも言えると思います。

そのために星槎大学が設立されたわけです。

その上でお話をします。

ぜひスタートを切るきっかけとなった分野を飛び出る良い意味での「遊び心」をお持ちいただきたい。

海外留学ならぬ学内遊学とでも申しましょうか。

核となる分野を飛び出て共生科学の全体を味わっていただきたい。

心からそう思います。

例えば教育に関わるから教育の分野だけとか、私は環境だから、福祉だから、免許が取ればいいから・・・というだけでは少し寂しいと思うのです。

これからの社会、こどもたちが生きて行く世界は確実に私たちが生きてきた社会とは異なります。

なぜ子どもたちを巻きこむ犯罪が後を絶たないのか。

なぜ生命の生活環境を修復不可能なほどまでに破壊をすることができてしまうのか。

なぜテロリズムは無くならないのか。

なぜ多くの食料を廃棄する一方、飢餓で9人に1人、毎日4万人もの人間が亡くなっているのか。

なぜいじめは起こるのか。

でも、その社会は私たちが作っているのです。

では、どのような社会にしていく必要があるか、

そのために自分は何ができるか

できることから行動するには何を知っておけば良いか。

こうしたことを日常の中で考えていくことも大切なことです。

特に18歳の参政権が認められた現在、安易にポピュリズムに流されない、選択する眼を子どもたちが早期に培っていく必要性も高まっています。

相互の関連性が今まで以上に深く複雑に絡まっている社会に私たちは生きています。

ある分野が単独で存在している世界など現実にはありません。

ところが私たちは分けて、部分ごとに学ぶことを小さい時からトレーニングされてきているのです。子どもたちは英数国理社が何か真理であるかのような強制力の中に日々を送り、そのテストでの出来不出来である意味判断をされる。本来は英数国理社はフィクションであり、リアルは子どもたちの目の前に広がる世界であるにもかかわらず。

そして全体を、本質を見失うのです。

他分野を横断的に学ぶこと。

これは学部であれ、大学院であれ、本学が望むところであります。

我々の学問は何のためにあるのか、科学は何のためにあるのか、専門性とは何なのか。

それは人間を中心とした広い意味での生命に対して、その繋がりに対する叡智を得るということだと考えます。

繋がりには過去・現在・未来という繋がりもあるでしょうし、今現在どのような繋がりで見ているかという繋がりもあります。

我々はどのように40億年の命をつないできたのか。

我々は今後、どのように命をつないでいくことができるのか。

また、隣に住む人とどのように関わりを持っていくのか。

隣国とどのように関わりを持っていくのか。

困難を抱える人にどのように寄り添い、支え支えられをしていくのか。

異なる宗教や思想とどのように関わりを持っていくのか。

多様な生命のバランスにどのように生かされているのか。
我々の心はどのようにあることが必要なのか。
共生科学は私たち一人一人の大いなる挑戦として成り立っているのです。

ですから星槎大学のシステムはその多様な、長期にわたる学びをサポートするための最適化を心がけています。

学ぶ分に応じた授業料システム、在学期間を設定しない、あらゆる領域を横断的に履修可能とするなどが本学の特長です。

それらはすべて共に生きることを追求していこうという星槎大学から皆さんに対する提案です。

一生の間、大学生として学べる大学があったって良いではないですか。

大学院を出てから学部で学んだっていいではないですか。

ある時は教える側、ある時は学ぶ側だっていいではないですか。

星槎大学の入学生は高校を出たばかりの方、
すでに大学を出て社会で働きながら学ぶ方、
他の大学で教鞭を執っておられる方、
退職後に生きる意味をもっと深めたいという方、
子育てに少し悩みを持たれたのでという方、
行政に関わっているのでさらに知識を深めたい方、
何らかの事情で高校を卒業できずに大学を諦めていたが、改めて本学特修生から正科生として入学された方など、
本当に様々です。

そのような多様なバックグラウンドを持たれた方々皆さんが学友であり、一つのテーマを軸にお互いに触発しながら学ぶことになります。

そして自分がこの社会に存在する意味、役割を認識し、必要な存在として高め合う。

結果、皆様の学びが共に生きるという観点から社会を変えていく。

そのような教える側と学ぶ側が混在し、それでも思いで一体化しているような世界にはない、「大学らしくない大学」を一緒に作っていきませんか。

もし、学びを続けていく中で、困難や悩みを持った場合はぜひ遠慮せずに大学にご相談ください。マンツーマン指導員でも科目担当でも事務局でも結構です。

必ず光に向かう糸口があります。

星槎大学に皆さんが学ぶ手伝いをさせてください。

星槎大学は星槎グループという志を一にする人間の集まりのなかの一つの学び舎です。星槎には現在3万6千人を超える、0歳から90歳を超える方までが様々な形で参画を頂いております。何らかの形で、星槎で学ばれた方の総数は51万人を超えます。日本の人口の0.4%です。

それを作った創設者は宮澤保夫先生です。

星槎大学では星槎学という基幹となる科目で講義を頂いております。

命を削って大学を作った人間の講義を受けることができるのも、今ここで学ぶ皆様の特権でもあります。

結びに、その宮澤保夫先生が星槎の理念としてお話になられた星槎の三つの約束について紹介をいたします。

- 一つ、人を認める
- 一つ、人を排除しない
- 一つ、仲間を作る

この一見、シンプルに見える、しかしながら実践するに難しい三つの約束を大切なものとして心に抱き、自分がこの世界に生まれてきた意味や果たす役割を大切に、そして丁寧に考えながら、共に生きることを科学していく仲間。

それが星槎大学です。

本日は誠におめでとうございます。

共に学び、実践してまいりましょう。

星槎へようこそ。

平成30年4月14日

星槎大学学長

井上 一